

NISA
成長投資枠対象

管理費用
年率0.50%

売買単位
1口

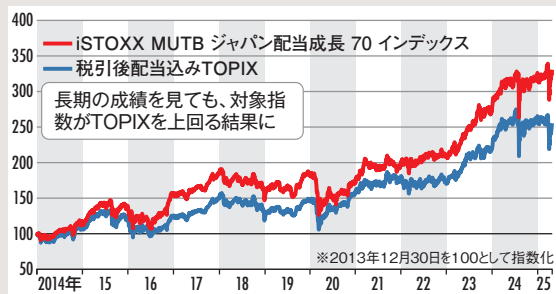
図表1 連動対象指数の組入銘柄上位10社 基準日：2025年4月30日

	証券コード	銘柄名	業種	構成比率
1	9744	メイテックグループHD	サービス業	2.6%
2	7267	本田技研工業	輸送用機器	2.4%
3	5444	大和工業	鉄鋼	2.3%
4	1719	安藤・間	建設業	2.3%
5	2768	双日	卸売業	2.1%
6	3231	野村不動産 HD	不動産業	2.0%
7	6417	SANKYO	機械	2.0%
8	2914	日本たばこ産業	食料品	2.0%
9	8252	丸井グループ	小売業	1.8%
10	1820	西松建設	建設業	1.7%

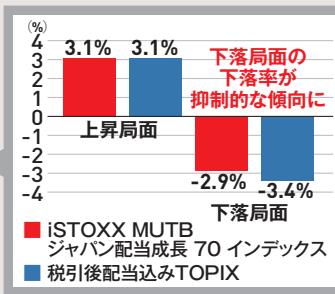
構成銘柄の
加重平均値

配当成長
1.7%
配当利回り
3.9%

図表2 連動対象指数とTOPIXの成績の推移



図表3 上昇局面と下落局面の騰落率



【図表1】本表に記載した配当利回りは、参考としての表示となります。本ETNに分配金はありません。配当成長は、(過去12カ月の1株当たり配当金－5年前における過去12カ月の1株当たり配当金)÷5日間平均株価として算出(直近リバランス時点)。配当利回りは、今後12カ月のブルームバーグコンセンサスの予想1株当たり配当金(ブルームバーグコンセンサスが無い銘柄は、直近に発表された会社予想値を元に年率換算)÷株価(基準日時点)として算出。

【図表2】2013年12月30日の値を100として算出。リターンは2013年12月から2025年4月までの各月末における直近1年間の騰落率の平均値。リスクは月次ベースの騰落率の標準偏差を年率換算して表示。TOPIXは本ETNのベンチマークではなく、ご参考として表示しております。

【図表3】上昇局面は2013年12月～2025年4月のうちTOPIX月次リターンがプラスの月、下落局面は同期間のTOPIX月次リターンがマイナスの月とし、それぞれの局面における各指数(ネットリターン)の月次騰落率の平均値を表示。

出所：STOXX社・Bloombergのデータを基に三菱UFJモルガン・スタンレー証券作成。

成長投資枠対象！ 三菱UFJ証券ホールディングスが発行するETN一覧
上記商品の他にも、テーマ別に6本のETNを発行。どれもNISAの成長投資枠対象だ。

162A	AIセレクトメガトレンド 日本株(ネットリターン) ETN	未来を形作るメガトレンドからAIを用いてテーマをセレクトし投資。
163A	半導体フォーカス 日本株(ネットリターン) ETN	「半導体時価総額」に着目した日本の半導体関連銘柄へ投資。
2070	スマートESG30女性活躍(ネットリターン) ETN	女性活躍の推進により、持続的な競争力の強化が期待される銘柄へ投資。
2071	スマートESG30総合(ネットリターン) ETN	将来のESG(環境・社会・ガバナンス)に関するリスクが低い銘柄へ投資。
2072	トップシェアインデックス(ネットリターン) ETN	特定の市場で高いシェアを持ち、高い競争優位性を有する銘柄へ投資。
2073	スマートESG30低カーボンリスク(ネットリターン) ETN	脱炭素社会への移行準備が進んでいる、カーボンリスクが低い銘柄へ投資。

詳しくは
こちら



主なリスクと留意点 必ずご確認ください ●ETNを通じて株式に投資する場合、各商品の価格は株価の変動や参考とする指標の変動の影響を受け、変動します。また、ETNは裏付けとなる資産を保有せず、発行体となる金融機関の信用力を背景として発行されるため、発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価格が下落する可能性があります。したがって元本が保証されているものではなく、損失を生じるおそれがあります。●ETNの売買取引には約定金額に対して最大1.43%(税込)の売買手数料がかかります。(ただし約定金額が193,000円以下の場合には最大2,750円(税込))。●本資料掲載のETNの管理費用は、最大年率0.95%です。●費用の合計額やその他の費用は保有期間等により異なりますので、表示することができません。各商品のリスクや費用に関して詳しくは、有価証券届出書や契約締結前交付書面等でご確認ください。●本広告に掲載されているデータは過去の指数推移および一定の前提に基づくシミュレーションです。掲載商品の実績ではなく、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。●本広告は当社が信頼できる情報をもとに作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。●本広告は情報提供を目的に本資料掲載のETNの委託者である三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社で作成したものです。

指数の利用に関する留意事項 ●STOXX Ltd.、ISS STOXX Index GmbHおよびそのライセンサー、リサーチ・パートナーまたは情報提供者は、本資料に記載された商品について、後援、宣伝、販売又はその他のいかなる形での支援も行うものではなく、また本資料に記載されている商品、または本指数に関連して、いかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。

商号等：三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2336号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

相場が不安定な時こそ注目したい！

配当成長の高い
日本株に投資するETNで
安定運用に期待！

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

345A 高配当成長 日本株(ネットリターン)ETN

不安定な株式相場が続くなか、高配当銘柄への関心が高まっている。注目は「高配当成長 日本株(ネットリターン)ETN」。配当成長が高く、相場の下落局面でも落ち込みが緩やかな日本株に1本で分散投資できるETNだ。

高配当銘柄に1本で分散投資！
成長投資枠対象の新規上場ETN

世界的に先行き不透明感が続く株式市場。そんな不安定な状況下でも、利益を確保する確率を高めたいと考えるなら、高配当や配当成長の高い銘柄への投資を検討してはどうだろう。

配当成長が高いほど
株価上昇の期待も高まる

高配当銘柄は、しっかりと収益基盤や健全な財務体質を有する優良企業が多く、比較的安定した成績が期待できる。また、継続して増配しているなど配当成長の高い銘柄は、配当の原資である利益が拡大している企業が多く、将来的に株価が上昇する期待も大きい。

下図は、配当成長率ごとに日本株のトータルリターン(値上がり益+配当益)を比較したもの。配当成長が高いほど、トータルリターンも大きくなっているのが分かる。さらに、配当成長の高い銘柄は株主還元を積極的に行うなど、投資家にとって魅力的な企業ともいえる。

とはいえ、高配当や配当成長は長く持続するとは限らない。

なかには、株価が大幅に下落し、一時的に配当利回りが高まっているだけ、という銘柄もある。投資する際には、企業の業績や今後の成長に不安がないかどうかをじっくり調べ、減配リスクの有無などを見極めることが肝心だ。これは個人投資家にはなかなか難しいだろう。

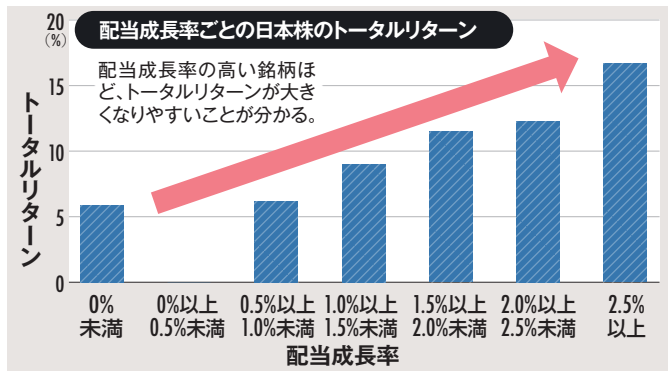
減配リスクを抑えるため
配当クオリティにも着目

そこで注目したいのが、2025年3月に東証に新規上場した「高配当成長 日本株(ネットリターン)ETN(銘柄コード…345A)」。

三菱UFJ証券ホールディングスが発行するETNだ。ETFと同様に、特定の指数に連動する。

同商品は、日本の高配当銘柄に投資する対象指数「iSTOXX MUTB ジャパン配当成長70インデックス(ネットリターン)」に

配当成長が高いと利益も好調に！



※分析対象期間：2013年12月～2024年6月、対象ユニバース：STOXXジャパン600(除くREIT)、各年6月・12月の連動対象指標のリバランス時期におけるユニバース銘柄の配当成長とその後半年間のトータルリターンを配当成長の区分毎に集計し、中央値を表示したもの。出所：STOXX社データ及びBloombergより三菱UFJモルガン・スタンレー証券作成。

連動。同指数の組入銘柄は、まず流動性の高い日本株600銘柄(REITは除く)から、予想配当利回りの高い上位50%に絞る。次に配当クオリティに関する複数の指標「過去リターン」「株価変動性」「財務健全性+利益安定性」「配当性向」「予想配当利回り」でのスクリーニングを実施。さらに、過去5年間の配当成長率が高い上位70銘柄を選定する。

配当クオリティによるスクリーニングを行うことで、減配リスクの低減を図っていることがポイント。つまり、ただ高配当で配当成長率が高いだけでなく、